

# SARA (Sub-Acute-Rumen-Acidosis) 亜急性ルーメンアシドーシス その2

先月号ではSARAの病態と症状について書きました。このSARAは程度の差はあれほぼすべての酪農場で発生しています。しかしながらある程度の乳生産性を維持していく上で、この「SARA」を全く起こらないような管理をすることが目標ではなく、ある程度のレベル内でコントロールすることが重要になります。今回は群内のSARAがどの程度のレベルなのかを計測するための方法を紹介します。

## 牛群のSARAを計測する ～糞便スコア～

牛群内を歩いて落ちている糞便を観察します。正常な糞便とアシドーシスを疑う異常な糞便をそれぞれ数え、異常な糞便の割合を調べます。なるべく多くの糞便を見てください。

### 正常な糞便



形が整っており辺縁も明瞭

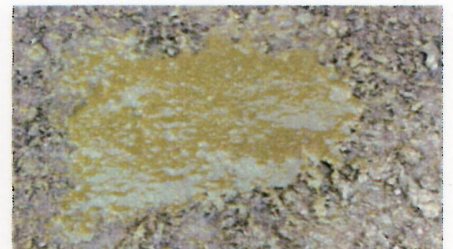


やや柔らかめだがOK

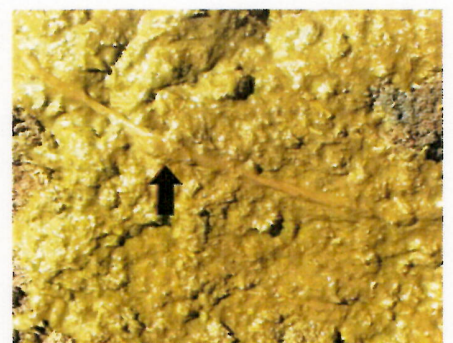
### 異常な糞便



泥状で辺縁が不整 飛び散っている



未消化穀類が目立つ



腸管の粘液（ムチン）が出ている



形は整っているが厚みがなく水分が浮いている

#### <正常な糞便とは？>

- ・厚さが2cm以上
- ・辺縁が明瞭で形が整っている

#### <異常な糞便とは？>

- ・泥～水様で辺縁が不整
- ・飛び散っている
- ・未消化穀類がめだつ
- ・泡立っている
- ・表面に水が浮いている など

### 糞便スコアの評価基準 ～異常便の割合～

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 0-5%   | よくコントロールされている               |
| 6-10%  | 良好                          |
| 11-20% | 黄色信号 状況を調査し、変更可能ならおこなう必要がある |
| >20%   | 赤信号 すぐに問題点を探し出し修正が必要        |

## 牛群のSARAを計測する ～鼻水スコア～

ルーメンアシドーシスの牛の第一胃内では炎症惹起物質の一つである「ヒスタミン」という物質が作られます。このヒスタミンは「末梢血管を拡張と透過性の増大」を引き起こす作用があり、このことが蹄葉炎の原因ともなり、削蹄時に蹄の出血や血斑として観察されることとなります。

またヒスタミンは鼻水を分泌させる作用もあります。真冬でもないのに鼻水を垂らしている牛がいる場合は「ルーメンアシドーシスとヒスタミンの作用」を疑うべきかもしれません。



ヒスタミンによる鼻水の漏出

牛群内を歩いて「透明な鼻水」を出している牛を観察します。なるべく多くの牛を見てください。採食中の場合は鼻水がとれてしまっていることがあるので、寝ている牛や通路にいる牛を観察する方が良いでしょう。

白っぽい鼻水や膿混じりの鼻水は別の原因が考えられるので対象ではありません（感染症など）。



### 鼻水スコアの評価基準 ～鼻水牛の割合～

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 0-5%   | よくコントロールされている               |
| 6-10%  | 良好                          |
| 11-20% | 黄色信号 状況を調査し、変更可能ならおこなう必要がある |
| >20%   | 赤信号 すぐに問題点を探し出し修正が必要        |

糞便スコアと鼻水スコアは牛群内のSARAを調査するための非常に簡便な方法です。多くの酪農場がSARAのリスクを抱えています。もしSARAの存在を疑うような結果が出た場合はご相談ください。何かしらの解決策を提案できるのではと思います。